

けいれん

発熱

けいれんとはからだ全体や、からだの一部がつっぱったり、ピクピクしたり、脱力したりすることです。

せき

● 次の症状を観察

下痢

- けいれんが5分以上続いている
- けいれんが止まっても、意識がはっきりしない

おう吐

〔 視線が合わない、お父さん・お母さんがわからない 〕

腹痛

- 唇が紫色で、呼吸が弱い

発疹

ひとつでもあてはまる

救急車を呼ぶ!

(P26 参照)

けが・虫さされ

- 初めてのけいれん
- けいれんが5分位続いた
- けいれん時、体温が38.0℃以下であった
- 生後6か月未満あるいは6歳以上
- けいれんが左右対称でない
- 吐いたり、おもらしをしたりする
- 最近、頭を激しくぶつけた
- 何度もくり返して、けいれんが起こる

口や歯のけが

やけど

熱中症

くすりの上手な
飲ませ方坐薬の使い方
くすりのQ&A

ひとつでもあてはまる

すぐに受診!

(P29 参照)

誤飲・誤食

異物の
吐かせ方

事故の予防

応急手当

救急車を
呼ぶとき救急医療の
ご案内

- 2度目のけいれんで、様子がわかっている
- けいれんかどうかははっきりしない
- 〔 寒気による震えの場合は、意識があり呼ぶと返事がある 〕
- 大泣きしてのけいれんで、すぐ普通の状態に戻る

ひとつでもあてはまる

おうちで様子を見て
通常の診療時間内に
受診

症状が悪化するようなら
すぐに受診

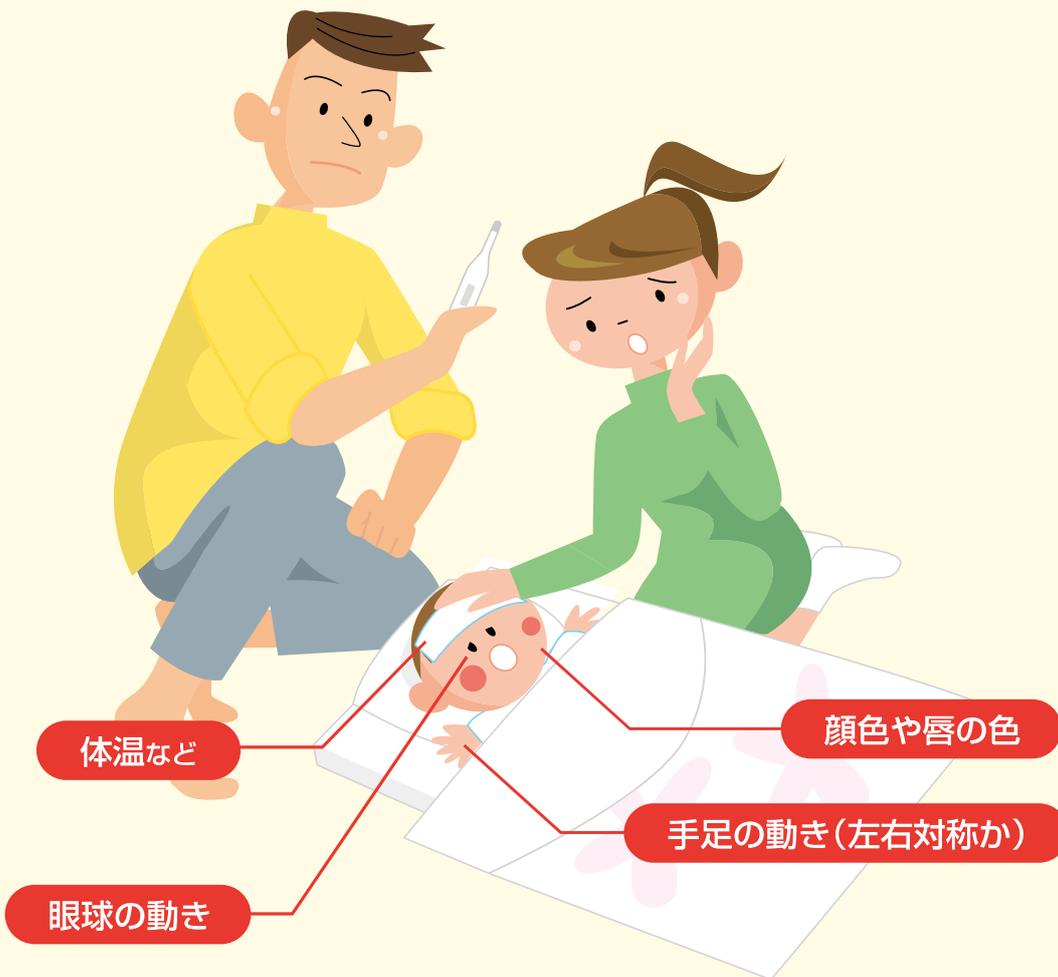
家庭での対応と注意点

- 吐く場合があるので、顔を横に向け、衣服をゆるめる。
- 体を揺すったり、たたいたりしない。
- 口の中に、指や物を入れない。
- 飲み薬などは飲ませずに、できるだけ刺激はさける。
- あわてずにしっかり様子を観察し、医療機関を受診する時に観察したことを医師に伝える。



〈観察ポイント〉

けいれんの続いた時間



発熱

せき

下痢

おう吐

腹痛

発疹

けが・虫さされ

口や歯のけが

やけど

熱中症

くすりの上手な
飲ませ方

坐薬の使い方
くすりのQ&A

誤飲・誤食

異物の
吐かせ方

事故の予防

応急手当

救急車を
呼ぶとき

救急医療の
ご案内